

鹿児島県長島町
副町長(地方創生担当)
井上貴至



長島町は、世界一のブリの町

- ・ HACCP認証を取得(日本初)、世界29か国に輸出
- ・ 昨年度、漁協で株式会社を設立(日本初)。
- ・ ECサイトやキッチンカーなどで販路を拡大。

しかし、2007年 町内唯一の高校が閉校

町外の高校に通うのは、大変です。

- ・バスで毎日片道1時間かける
- ・寮に入る
- ・家族みんなで引っ越す

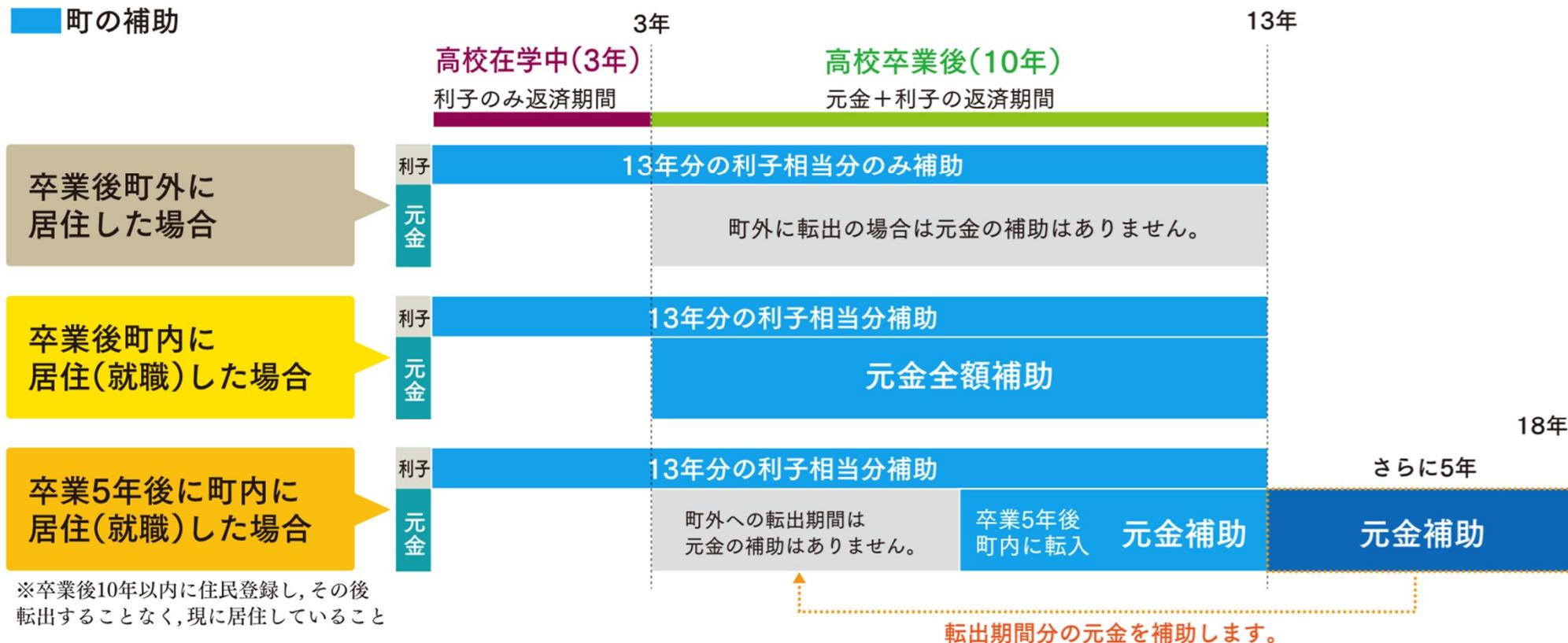
そのため、追加的な子育て費用がかかる。
また、若者の人口流出が続いている。

高校・大学等卒業後10年以内に地元に戻れば、返済を全て補填する「ぶり奨学金」をつくりました。

出世魚で回遊魚のブリにちなみ、「成長して戻ってきて」という願いを込めました。

金融機関から高校在学時に「ぶり奨学ローン」を利用した場合

■ 町の補助



ぶり奨学金のこだわり

金融機関(鹿児島相互信用金庫)と提携

- ・超低金利の「奨学ローン」を特別に提供

〔 高校生は毎月3万円まで
大学生等は毎月5万円まで 〕

- 迅速で緻密な制度設計
- 初期費用の削減

- ・将来の財政負担を見据え、プロから助言

- 負担の平準化

ぶり奨学金のこだわり

返済を補填する原資を事業者等が寄付

- ・人口減少は地域の事業者に大きな影響
- ・ぶり1本につき1円などできる範囲で寄附
- ・町の事業者などが、600万円を超える寄附
- ・町出身者などが、ふるさと納税の使途指定

→ 自治体の財政負担がほとんどなく、次の世代まで続く安心できる制度に

→ 地域の後押しを受け、子どもが積極的に学ぶ

ぶり奨学金の思わぬ効果

- ・NHK全国放送、西日本新聞1面トップ、ダイヤモンド誌・プレジデント誌などで大きく掲載

→ 世界一のブリの町である長島町のPR

- ・自治体で唯一「辻調理師専門学校」と協定
シェフと生産者の交流事業や町民の受け入れ

→ 食のブランドづくり、販路拡大



ぶり奨学金の思わぬ効果

・地方創生において、金融機関が自治体のために独自の商品を提供した唯一無二の事例

- 官邸や財務省などが注目し、関税見直しの交渉
- 提携金融機関が、地域エネルギー会社に出資
- 提携金融機関の紹介で町外の有力企業が、進出を検討

・教育の分野でも注目

- 通信制高校を支える拠点(Nセンター)がオープン



群馬県下仁田町の吉弘副町長、同町の4つの金融機関の支店長がヒアリングに来るなど全国50以上の自治体・金融機関から導入に向けた問い合わせ

ぶり奨学金は、
子育てを応援し、出身者が戻りやすくする制度

→ 「競争」から「協奏」へ
全ての自治体で応用可能

→ アメリカンドリームは1人の夢だが、
ナガシマンドリームはみんなで叶える夢